



◆内科系診療センター長に就任して

長谷川 真

昭和大学江東豊洲病院では、内科である、呼吸器・アレルギー内科、リウマチ・膠原病内科、糖尿病・代謝・内分泌内科の3科に、腎臓内科、腫瘍内科、精神科、放射線診断科、放射線治療科、臨床病理診断科、リハビリテーション科の7科を加えた10科により、内科系診療センターが構成されています。

病院長に就任された、笠間毅先生の後任として、5月9日に内科系診療センター長に就任いたしました。

放射線診断科では、日常業務として、当院で行われるすべてのCT、MRI検査、一部の単純撮影、核医学検査の読影報告書作成、他院から予約依頼を受けたCT、MRI検査当日の患者対応、返信報告書作成、各科から依頼される他院画像の読影コンサルタント、放射線画像を利用した、動注、塞栓、ドレナージなどの治療、生検を行っています。保険診療で、主業務である報告書作成の読影加算料を算定するには、翌診療日までに、8割以上の読影報告書作成が必要となるので、日曜、祝日も診療日である当院では、他院とは異なる忙しさがあります。開院以来、検査件数は順調に増加しており、放射線診断科も病院運営に少しでも寄与できているものと考えています。

センター長就任以来、すでに、押印業務は増加し、今までは不明であった内科系診療各科の動向が、徐々に理解できるようになっています。内科系診療センター各科、昭和大学江東豊洲病院の円滑な運営のお役に立てるよう、微力ながら尽力する所存ですので、今後とも、よろしくお願いいたします。



昭和大学江東豊洲病院

第39号のトピックス

- 内科系診療センター長就任挨拶
- 熱中症にご注意ください
- 子どもたちの教育の保障って？
- 警備室紹介
- 編集後記

◆熱中症にご注意ください

救急センター 教授 弘重 壽一

熱中症の季節になりました。最近は天気予報に熱中症危険情報があったりして皆さんが熱中症に注意を向けるようになってきていますが、それでも熱中症になってしまう人は多いのです。

人は体温が上がると皮膚への血流をふやしたり汗をかいたりして熱を逃がそうとしますが、暑い環境での仕事や運動、多湿・無風などの条件が加わると、体温調節機序が追いつかなくなり熱中症になってしまいます。

いわゆる「熱中症弱者」という体温を調整する事が不得意な方々がいます。特に高齢者の方は、もともと体内に蓄えてある水分量が少ない上に、暑さに敏感でない、汗をかきにくい、喉の渇きを感じにくい、持病があってそのために利尿剤などの薬を飲んでいるなどの悪条件をお持ちです。乳幼児も発汗機能が未発達という点で熱中症弱者です。

熱中症の重症度は1度から3度にわけられます。それぞれの重症度は時間経過の中で判断しなければならないのですが、以下の症状が現れます。熱中症1度は、以前は熱失神、熱けいれんといわれていたもので、立ちくらんで一瞬意識を失ったり、痛みを伴った筋肉のこむら返りの症状です。他に、めまい、手足のしびれや脱力があることがあります。冷所で安静にし、太い血管がある両首、脇の下、両足の付け根を冷やします。またナトリウムを含む水分を補給します。これらの応急処置で症状が良くなれば必ずしも病院受診は必要ありません。熱中症2度は、以前は熱疲労といわれていたもので、頭痛、吐き気・嘔吐、倦怠感、虚脱感、集中力や判断力が低下して意識が何となくおかしいという状態です。応急処置をしつつ医療機関への受診が必要です。3度は場所や日付けがわからないなど見当識障害以上の意識障害に陥っている場合で、痙攣発作を起こすこともあります。すぐに病院に救急搬送して積極的な治療が必要です。検査をすると肝機能、腎機能、血液凝固系の異常が見つかります。

当院は地域の二次救急医療機関として、本年も熱中症患者の診療を行ってまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



◆ 子どもたちの教育の保障って？

昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島 賢和

昭和大学病院内で、子どもたちの教育の保障を担当している副島賢和と申します。普段は、旗の台にある昭和大学病院の入院棟17階さいかち学級におります。

このたび、上條副院長、こどもセンター水野教授、川島師長、田中先生、森田先生をはじめ、多くの方々のご尽力により、江東豊洲病院のこどもセンターや小児科外来にて、子どもたちとお会いする機会をいただけるようになりました。二週間に一度、病棟をまわりながらかわりを持たせていただいております。子どもの学習をみたり、学校での話を聞いたり、将来のことや今の心配を話してもらったり…保護者の方とお話をしたり、ごきょうだいとおしゃべりをしたりしています。診察室で、ご相談をきく時もあります。

病気の子どもたちは、学校の先生や世間から、
「元気になったらおいで」
「今はゆっくり休んでしっかり治して」
「学習は、治ってからでいいよ」
と言われることがたくさんあります。
でも、子どもたちにとって、「学ぶことは生きること」です。
保育士さんでしたら「遊ぶことは生きること」とお考えになるかも知れません。



私は教師ですから、子どもの学びを保障することを大切にしています。たとえ一日であったとしても、一回の出会いであったとしても、教育を使って子どもの治療のエネルギーをためることをおこなっています。

「明日もまた学級に行きたいから…」「明日やりたいことが見つかったから…」「明日、他の病棟のあの子と会いたいから…」

「薬も飲む」「注射もがんばる」「早く寝る」…

また、子ども本人が病気でなくても、保護者やきょうだいが病気のために苦しんでいる子供達もいます。昭和大学病院では、そんなご家族のために私にお声をかけていただけます。とてもありがたいことです。

チームの一員として、お役にたてるようつとめていきたいと思えます。

藤が丘病院には、藤が丘学級があり、横浜南養護学校の教員が子どもたちとのかかわりをしていただいております。

今後も子どもたちの教育の場を作っていきたいと思っております。

ご協力どうぞよろしく願いいたします。



◆警備室紹介

警備員とは、道路工事現場で通行する車や人を誘導する人、ショッピングセンターなどで施設内を見回っている人、現金輸送車を警備している人など、街を歩いていて警備員を見かけない日はないのではないかと思います。警備員として働いている人はたくさんいます。

私達昭和大学江東豊洲病院の「警備員」とはどんな業務を行っているかを簡単に紹介させていただきます。大きく2種類の業務に分類されます。一つ目は「保安業務」、二つ目は「受付・案内業務」です。

「保安業務」とは、安心・安全を維持する業務です。例えば、歩行者と車の安全を守るため、正面ロータリーにて交通誘導業務、異常の早期発見のため、巡回、立哨業務などを行っております。

「受付・案内業務」とは、院内で迷う事が無い様にする業務です。例えば、正面入り口にて院内にご案内するエスコート業務、面会がスムーズに行えるための面会受付業務などを行っております。

警備員とは、怖そうなイメージをお持ちの方も多くいらっしゃると思いますが、当病院の警備員は明るいスタッフが多いです。何かお困りの事、お気づきの事があれば気軽に声を掛けて下さい。これからもどうぞ宜しくお願い致します。



編集後記 西 健

開院して3年が経過し、開院当初ピカピカの一年生であった初期研修医の面々が研修を終了してこの4月より各科に配属されました。まだまだ未熟なところもあるかもしれませんが、医療スタッフの一員としてとして一生懸命活躍をしております。彼らが働いている姿を見て、自分を含めた先輩がフレッシュマンであったころを思い出しながら初心にかえり気持ちをリフレッシュして医療に従事していければと思います。梅雨にはいりじめじめした気候となっておりますが、皆さんも心身ともにリフレッシュして体調を壊さずに過ごしていただければと思います。